

平成 25 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

| | |
|--------------------|---|
| 研究領域名 | 共感性の進化・神経基盤 |
| 領域代表者 | 長谷川 壽一（東京大学・大学院総合文化研究科・教授） |
| 研究期間 | 平成 25 年度～平成 29 年度 |
| 科学研究費補助金審査部会における所見 | <p>本研究領域は、共感性に関わる分子、細胞、回路、行動並びに社会における共感性の機能を統合的に理解することで、共感性の生物学的基盤及び適応的意義の解明を目指すものである。共感性の進化・神経基盤という新規パラダイム創出を目指す独創的な提案であり、脳科学、認知科学、生物学にとどまらず人文・社会科学にも広範な波及効果が期待できる。共感性の「共通神経基盤と社会機能」、「進化と遺伝基盤」、「分子・回路探索」という3つの戦略の下、情動伝染の神経回路とそれに対する高次機能の修飾、オキシトシンの役割、協力行動と社会ニッチの進化という共通のテーマを設定し、3つの計画研究間の連携を図るための方策も具体的に構想されている。研究組織については、各種委員会の設置やリサーチアドミニストレーターの活用など、研究者間の実質的な連携を促す方策や、研究技術やリソースの提供、若手人材育成などについてよく考えられており、評価できる。</p> <p>一方で、研究領域の目標が非常に大きなものであるので、5年間での達成目標をより明確にするとともに、公募研究をうまく活用して、霊長類や人文・社会系の研究も強化すべきである。また、共感性には相手を思いやるといった面だけではなく、例えば多様性の喪失や全体主義につながるなどネガティブな面もあることに留意し、双方の視点を持って研究を進めることが望ましい。</p> |